

祈りの原則 ③

ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。(ヘブル4:16)

これは、信者が天の父に祈っているときの霊的現実です。単なる絵画的な表現ではなく、霊の世界で現実に行き起きていることです。祈りによって、信者は神に近づき、神から助けと祝福を受け取り、霊的に成長します。

2019年9月から、祈りについて、聖書はどのように教えているのか、学んでいます。

□祈りに関する学び全体のテーマ

1. 祈りの原則
2. 祈りの3つのタイプ
3. 旧約聖書の中の祈り
4. 新約聖書の中の祈り
5. 祈りの条件
6. 祈りの構成と内容
7. 祈りのルール
8. 祈りの諸問題

□「祈りの原則」のアウトライン

1. 祈りとは
2. 祈りを象徴するもの
3. 祈る理由と目的
4. 祈りのすすめ
5. 祈りの約束
6. 祈りのアウトライン
7. 祈る場所
8. 祈る時
9. 祈るときの姿勢
10. 祈りの力と結果

□祈りの約束・・・祈りに応えるとの神の約束 聖書の中に 15箇所

1. 出 22 : 22~23

- (1) モーセの律法では、やもめとみなしごは特別な保護を受けた。
- (2) やもめとみなしごが不当な扱いを受けるとき、神に祈るなら、その祈りは必ず聞かれて、不当な扱いをした者は、神のさばきを受ける。

2. 申 4 : 7

- (1) 「まことに、私たちの神、主は、私たちが呼ばわるとき、いつも、近くにおられる。」
- (2) 神は、イスラエル民族が神に呼ばわるとき、必ず近くにおられる。イスラエル民族は迷い出るであろう。しかし、彼らが神に呼ばわるとき、神は近くにおいて必ずその祈りを聞いておられる。

3. II 歴 7 : 12~18

- (1) 14 節「彼らの地をいやそう」
- (2) これは、イスラエルの民が民族的に悔い改めて、神の前にへりくだり、祈りをささげるなら、かの地をいやすという約束である。
- (3) 民族的に＝まず指導者たちが悔い改め、民に呼びかけ、民のほとんどがそれに応答して悔い改め、メシアを信じ受け入れる。その日、にせ預言者たちは除かれる（ゼカリヤ 13 : 2~3）。→ 「イスラエルはみな救われる」（ロマ 11 : 26）
- (4) 指導者たちに与えられるしるしは、「ヨナのしるし」（マタイ 12 : 38~40）。ヨナのしるしとは、死後 3 日前後を経て蘇生または復活すること（ヨナ 1 : 17）であり、3 回起きる。うち 2 回はすでに起きたが、イスラエルの指導者たちは拒否した。
 - ① ラザロの蘇生（ヨハネ 11 章、11 : 46~53）目撃者の報告・議会での審議
 - ② イエスの復活（マタイ 27 : 62~4、11~15）ローマ兵数人の報告・協議
 - ③ 二人の証人の復活（黙 11 : 3~13）
 - 11 : 2 二人の証人を倒した後、7 節の獣（異邦人の王、反キリスト）がエルサレムを占領する。その期間は、42 か月＝3 年半
 - 12 : 6 女（イスラエルの民）は荒野へ逃げる。その期間は、1260 日＝42 か月＝3 年半。その場所は、ボツラ（ペトラ）ミカ 2 : 12
 - 12 : 14~15 女（イスラエルの民）は大鷲の翼を二つ与えられた（出 19 : 4、エルサレムは霊的な理解ではエジプトと呼ばれる 11 : 8）。荒野で「ひと時とふた時と半時の間」＝3 年半、蛇（サタン）の前を逃れて養われる。

- (5) イスラエルの民族的救いは、大患難期の末期に起きる。
- ① 大患難期の後半期に全世界を統治する王=反キリストは、イスラエル民族の抹殺を図る。イスラエル民族の悔い改めがメシア再臨の条件だからである(ホセア 5:15)
 - ② 反キリストの軍勢が迫りくる中で、イスラエルの指導者たちと民は、「わたしの顔を慕い求め」(ホセア 5:15) とあるように、イエスをメシアとして認め、地上に帰って来てくださいとイスラエル民族が祈り求めるであろう。「戻っていよう」とは、メシアが一度は地上にいたことを示す。
 - ③ メシアの再臨によって、大患難期は終結する。
 - ④ そのあと、イスラエルは信仰の民として約束の地に集められ、帰還を果たす。
 - 現在の帰還は、不信仰の中での帰還
 - 旧約聖書は2つの帰還を預言している
 - 不信仰の中での帰還・・・エゼ 20:33~38
 - 信仰の民としての帰還・・・イザヤ 11:11~12 11節「2回目」、エレ 23:3~4
 - ⑤ 大患難期終結から75日間を経て、メシアの王国が始まる。イスラエル民族にかの地を与えるという神の約束は成就する(創 12:1、7、13:15、15:18、17:8)

4. ヨブ 22:27

- (1) 「あなたが神に祈れば、神はあなたに聞き、あなたは自分の誓願を果たせよう」
- (2) 人が神に祈るなら、神はその人の祈りを聞いてくださる。

5. ヨブ 33:26

- (1) 「彼が神に祈ると、彼は受け入れられる」
- (2) 神はただ祈りを聞くのではなく、喜んで受け入れてくださり、良きことをしてくださる。たゆむことなく祈りをささげる人に、神は良いことをもって報いてくださる。

6. 詩 50:14~15

- (1) 「感謝のいけにえを神にささげよ・・・苦難の日にはわたしを呼び求めよ。わたしはあなたを助け出そう。あなたはわたしをあがめよう」
- (2) 感謝の祈りは、いけにえをささげることと同じとされる。特に苦難の中にあるときに神を呼び求め、同時に感謝の祈りをささげるなら、神はその祈りを聞かれて助け出すと約束しておられる。苦難にあつたら、祈りに駆け込もう。

7. 詩 65 : 2

- (1) 「祈りを聞かれる方よ」
- (2) ここでも、神は祈りを聞くと約束してくださっている。神は「祈りを聞くお方」であるなら、信者は「神のもとに進み出て神に祈る者」である。

8. 詩 86 : 5~7

- (1) 5節 神はいつでも赦そうとしてくださっている
- (2) 6~7節 ここで、ダビデは、詩篇の前述の、6番と7番の2つの約束を握って神の前に出ている。6番の約束は、「苦難のときに神を呼び求めるなら、神は助け出してくださる」という約束、7番の約束は、「神は祈りを聞いてそれに答えてくださる」という約束。 → 7節「私は苦難の日にあなたを呼び求めます。あなたが答えてくださるからです」

9. 詩 102 : 16~17

- (1) 17節「窮した者の祈りを顧み、彼らの祈りをないがしろにされなかったからです」
- (2) 窮して神のもとに来る者（経済的に困窮する者）の祈りを、神はないがしろにはしない。

10. 箴 15 : 8

- (1) 「正しい者の祈りは主に喜ばれる」
- (2) 地上で正しい者が祈るとき、神はそれを喜ぶ。
- (3) 正しい者・・・正しい者とは、「罪のない、完全な者」ではない。もしそうだとしたら、信者で祈りが聞かれる者は一人もいない。地上で正しい者とは、信仰を通して神の義を受け取ったことにより、義人であると認められた人々を指す。信仰によって神の方に向きを変えた人々とも言えよう。神はそのような人々の祈りを喜んで聞いてくださるという約束。
- (4) 信者たちが地上で祈ると、天では神がそれを喜んで受け取ってくださる。

11. 箴 15 : 29

- (1) 「主は正しい者の祈りを聞かれる」
- (2) 正しい者とは、信仰を通して神の義を受け取ったことにより、義人であると認められた人々である。信仰によって神の方に向きを変えた人々である。
- (3) 神はそのような人々の祈りを聞いてくださるという約束。

12. ルカ 11 : 13

- (1) 「なおのこと、天の父が、求める人たちに、どうして聖霊を下さないことがありましょう」
- (2) 旧約時代には、聖霊が信者に臨む場合には、条件や限定があった。
 - ① 条件・・・民族の存亡にかかわる危急のときなど
 - ② 限定・・・
 - 信者の内には入らないで、その人の上にとどまった
 - いったん留まった聖霊がその人から去ることもあった
 - ③ 詩 51 : 11 「私をあなたの御前から、投げ捨てず、あなたの聖霊を、私から取り去らないでください」とは、旧約時代の信者の祈りである。
- (3) 新約時代では、信者には全員、信仰を通して恵みにより救いを受けたその瞬間から、聖霊がその人の内側に住んでくださる。そして、聖霊がその人から去ることは決してない。
- (4) ルカの福音書のこの箇所も、メシアの十字架より前なので、時代的には、まだ旧約時代である。神は、当時の信者の祈りに応えて、聖霊をお与えになることがあった。この祈りは、現代の新約時代の信者には関係のない約束である。
- (5) 新約時代の信者には、信じたその瞬間にすでに全員に、聖霊が与えられている。

13. ヨハ 4 : 10

- (1) 「あなたのほうでその人に求めたことでしょう。そしてその人はあなたに生ける水を与えたことでしょう」
- (2) 神は、求める人に永遠のいのちを与えると約束しておられる。神に求めるとは、神に祈るということである。もし人が、神に祈り、神に永遠のいのちを求めるなら、神はその人に永遠のいのちを与えてくださる。
- (3) 人が神に祈り、神に永遠のいのちを求めるとき、新約時代においては、次のことを信じる信仰をもって祈ることが条件である。
 - ① イエスは、私たちの罪のために死んだ
 - ② イエスは、墓に葬られた
 - ③ イエスは、3日目に復活した
- (4) なぜなら、イエスが死を通過して、よみがえったことは、永遠のいのちを証明したからである。これを信じるのが、イエスを遣わした神を信じることである。

14. ヨハ9:31

- (1) 「だれでも神を敬い、そのみこころを行うなら、神はその人の言うことを聞いてくださると、私たちは知っています」
- (2) 神を敬う・・・神を礼拝する、神を神としてあがめる、神の御性質をほめたたえる、こういう人の祈りを、神は聞いてくださるという約束。

15. ヤコ1:5~7

- (1) 「あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜しげなく、とがめることなくお与えになる神に願いなさい。そうすればきっと与えられます」
- (2) もしあなたが、ある決断を迫られたとしたら、どうしますか？
 - ① ✖ 何か、超自然的なしるしを求めて祈る。
 - ② ✖ 進む先で、神がドアを開くか、閉じるかをしてくださいと、祈る。

これらのような特別で明確な現象を祈り求めても、大抵の場合、神はそれには何も答えないという選択をなさる。

- ③ ○ 神から知恵が与えられるように祈る。それによって、適正な判断ができるように願う。